

2030フランスアルプスオリンピック・パラリンピック競技大会に向けた ターゲットスポーツの選定、支援について

令和8年4月30日
スポーツ庁長官決定

1. 趣旨

- スポーツ庁においては、2021年12月に2024年以降を見通した強力で持続可能な支援体制の構築を目指し、夏季・冬季競技共通の考えのもと「持続可能な国際競技力向上プラン」を策定した。
- 「持続可能な国際競技力向上プラン」では、通常4年周期のオリ・パラ大会に向けて選手強化活動が行われる実態を踏まえ、前半2年を「全競技パフォーマンスの最大化」の考えの下、『活躍基盤確立期』として支援、後半2年を「メダル獲得の最大化」の考えの下、柔軟かつ大胆な重点支援を実施する『ラストスパート期』と位置付けている。
- この「持続可能な国際競技力向上プラン」を踏まえ、2030フランスアルプスオリンピック・パラリンピック競技大会（以下、2030フランスアルプス大会という。）で実施される冬季競技については、2026年度から2027年度までを「活躍基盤確立期」として位置付け、ターゲットスポーツを選定し、各NFの選手強化活動を積極的に支援することとする。

2. ターゲットスポーツの対象競技

- 2026年度からの冬季競技におけるターゲットスポーツは、2030フランスアルプス大会実施競技から選定する。

3. ターゲットスポーツの選定方法

- 2030フランスアルプス大会に向けた「ターゲットスポーツ」は、別紙のとおり、2026ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピック競技大会（以下、2026ミラノ大会という。）及び世界選手権大会の競技成績と、強化戦略プラン評価の両方の基準に基づき選定し、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会（JPC）、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）から意見を聴いた上でスポーツ庁長官が決定する。

4. ターゲットスポーツへの支援内容

- 「ターゲットスポーツ」への支援内容は、ハイパフォーマンス・サポート事業によるアスリート支援とする。

I. 選定の評価項目

下記、1 および2の評価基準を満たすものから、2026年4月に選定する。

1. 強化戦略プラン評価

- HPSC が行う強化戦略プランの最新の実効性評価の結果において、A-Dの4段階評価のうち上位2評価（A・B）であることを条件とする。
- 2030フランスアルプス大会から実施される新規競技については、下記2の競技成績評価のみで選定する。

2. 競技成績評価

- 以下①及び②の競技大会における競技成績について、表1の基準を満たすもの。
 - ① 2026ミラノ大会
 - ② 2026年3月31日までに開催された直近の世界選手権大会

<表1：競技成績の評価基準> ※下記評価基準のいずれかを満たすことを条件とする。

評価区分	個人競技	団体競技
S	・①及び②で1位	・①又は②で1位
A	・①又は②で1位 ・①及び②で3位以内	・①又は②で3位以内
B	・①で3位以内 ・①で8位以内及び②で3位以内	・①又は②で8位以内

(注1) 2030フランスアルプス大会から実施される競技等については、2026ミラノ大会の代わりに、2026年3月31日までに開催された世界選手権大会の成績で評価する。

(注2) 世界選手権大会に相当する国際競技大会が存在しない競技については、該当の競技は選考年の3月末時点の世界ランキングを評価する。

II. 再評価について

○上記記載の評価基準に基づき、2026年4月1日から2027年3月31日までに実施された競技成績等を踏まえて一年度ごとに再評価を行い、2027年4月に見直し結果の公表を行う。

以 上